

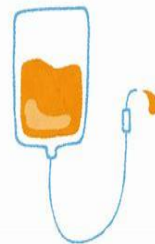
脂肪乳剤の投与の意義

当院では脂肪乳剤としてイントラリポス輸液®を採用しています。

皆さんは脂肪乳剤がなぜ必要かご存知でしょうか？今回は脂肪乳剤の投与の意義と重要性についてご紹介します

～脂肪乳剤の投与の意義とは？～

脂肪乳剤は脂質を主成分としており、脂質の中でも特に**必須脂肪酸**を補えることが重要です。また、エネルギーの補給にもなります。



～必須脂肪酸とは？～

必須脂肪酸とは、**ヒトの体で合成できない脂肪酸**のことで、食べ物から摂取する必要があります。必須脂肪酸の摂取が不足した場合には**欠乏症**が存在します。

脂質を投与しない栄養管理下で、小児では**2週間**、成人では**4週間**で欠乏症が出現すると報告があります。

*必須脂肪酸にはリノール酸(n-6 系脂肪酸)、 α -リノレン酸(n-3 系脂肪酸)があります。

必須脂肪酸欠乏症の症状

必須脂肪酸	欠乏症状
リノール酸 (n-6 系脂肪酸)	<u>魚鱗癬状皮膚症状(乾燥・落屑)</u> 血小板減少、以上心電図(R波) 創傷治癒の遅延、 脂肪肝* ○ ○
α -リノレン酸 (n-3 系脂肪酸)	知覚麻痺・異常 倦怠感、歩行不能

*無脂肪の高カロリー食(点滴)を投与し続けると、過剰に投与された糖分が肝臓で脂質に変換され、肝臓に脂肪沈着が起こってきます



～必須脂肪酸欠乏症を防ぐには？～

成人で1日10g程度の脂質を摂取すればよいといわれています。

イントラリポス 10%輸液®では1日100mL(大豆油 10g 含有)の連日投与あるいは250mLを週3回程度投与すると予防できる報告があります。

*イントラリポス 10%輸液 250mLには脂質として大豆油 25gを含有しています。



～まとめ～

経腸・経口摂取が不十分な患者さん、特に**脂質を投与していない静脈栄養のみでの栄養管理が長期化している**場合には必須脂肪酸の欠乏症に注意が必要です。

必須脂肪酸の欠乏症は1日10gの脂質を摂取することで予防できます。

経口摂取が難しい場合は脂肪乳剤の投与をご検討ください。